

FCAJ Design Labレポート

～デザインマネジメント4.0の一考察

2023年3月

一般社団法人
Future Center Alliance Japan

2022年3月のFCAJシンポジウムにて「デザインの構想力」と題して、イノベーションにデザインという知的資源をいかに活用するかを、エコシステム、人材、マネジメントの観点で12名の有識者と議論しました。ここでは、**ホリゾンタルに組織／社会を横断するエコシステム**や、**社会との共感から自分事にする精神性や哲学性**、「**意味から意義へ**」**顕在化させる統合設計**としてデザイン、アート、エンジニアリング、サイエンスの領域を融合する新しい知力など、様々なキーワードが出されました。

上記を踏まえて、FCAJデザインラボでは、デザインの機能を要素分解した上で、改めてエコシステム、人材、マネジメントの視点でデザインマネジメント4.0（社会変容イノベーションを導くデザイン）を考察しようとしてしました。その議論の過程で、デザイン自体を目的ではなく手段ととらえ直し、FCAJ構想の場の具体的なテーマ（サーキュラーソサエティ、サイエンスコミュニケーション、リビングラボ）を議論する中で、デザインの役割や価値を見出すことにしました。

サーキュラーソサエティでは、個々人が実感し行動変容につなげ企業の環境意識を変革することや、サイエンスコミュニケーションでは、高い専門領域の知見を市民一人ひとりの好奇心とつなげることで、リビングラボでは、行政や企業の実践力を個々人の生活に根ざした意見とつなげることで、デザインが関わることで新たな観点が見えてきました。

本質的には、**社会システムを俯瞰し、自分ゴトで問う**ことや、**感情や思考を可視化し異分野対話を翻訳**すること、**目的工学とデザイン思考で多様な要素を編集**すること、などとも言い換えることができます。

多くの企業で「イノベーションへの道筋が見えない」「短期志向のため長期的な取り組みが難しい」という課題に直面していますが、マクロ的な論理とミクロ的な視野狭窄の相互理解を促す手法や表現をデザインという行為が媒介すると「人」の視点が入り、**自分ゴトとして納得しながら行動変容や意識改革が促**せます。

デザインは、アフォーダンスやメタファーを駆使し**人に寄り添う界面を新たに創り、人と社会の関係性をカタチとして与**える一つの方法であり、それを組織的に実現することがデザインマネジメントでもあります。



FCAJ
Future Center Alliance Japan